令和元年（2019）
阿づまの光
11月号・Novembro

【元屋敷土・ご神木榎釉】

教主さまお作　灰釉茶盌「月の光」

題字出口直日

通巻第６０８号
発行 大本東京本部
東京宣教センター
センター長 猪子 恒
〒110-0008
東京都台東区池之端 2-1-44
TEL 03-3821-3701
FAX 03-3821-5283
振替 00160-5-72625
URL http://oomoto-tokyo.com
Mail tokyohonbu@oomoto.or.jp

一切は神さまのご意思のままに

東京宣教センター次長　橋本伸作

10月3日～6日まで東京国立博物館・応挙館で行われた「出口王仁三郎耀盌展」は、大神さまのご守護のもと、無事に終えることができました。2日目にあたる4日には、ちょうど台風18号が接近するという予報があり、数日前からひたすらご祈願の毎日でした。

祝詞を奏上しながら、ふと平成28年の神島開き100周年の現地祭典（兵庫県高砂沖）を思い出しておりました。同年9月8日、台風13号がドンピシャで接近することとなり、事務局としては全国から600人の皆さまをお迎えする現地祭典に、台風だけは避けてほしい――、そうなると、もう神さまにお祈りするしかありませんでした。

そんなある日、夢を見ました。神島での祭典を終え、青空が広がる神島をあとにしながら海上を進む光景でした。「これは大丈夫！」。そう思いながら迎えた当日早朝、予報通りの雨。波が高く、船頭さんの判断によっては神島に渡れない可能性も。すると「上陸可能」との先発隊からの連絡に一先ず安堵。しかし現地の状況を考えると、祭典・行事は困難か……、そう思いながら神島に渡ると、驚くことに現地は少しの雨もなく、予定通り祭典を執行。帰りは秋空の広がる神島を拝しながら、夢と全く同じ光景を眺めていたのでした。

このたびの耀盌展の台風接近も、大丈夫とは思いながらも、人間心では不安の毎日。結果的にはご守護を頂き、何の影響もなく開催できましたが、祈りとともに耀盌展を迎えることができたのは、大きなご神徳であったと存じます。

出口王仁三郎聖師さまのお歌に、

『心をも身をもまかせて祈りなば神はまことの力たまはむ』

また、出口日出麿尊師さまのお歌に、

『かにかくに心かたむけ祈りなば大み光は射して来るべし』

とございます。人として最善の努力を尽くすことはもちろんですが、一切のものは神さまのご意思のままに動いていることを思わせていただき、神さまに対する〝信〟がますます深くなってゆくことは、祈りの尊さであると存じます。

今月の聖言

身を捨てて道につくさば道もまた
捨身の人を捨てず助くる

出口王仁三郎聖師

60 代　一般女性
　紅色なのか桃色なのか、何色なのか、本当にすべての色彩に心が引き込まれるようでした。この世の色彩とは思えないものでした。家族の健康に悩む中、伺いましたが、光がさしてきたような、そんな感じを頂きました。

30 代　一般女性
　出口先生の耀盌を実際に目の前で見られる機会を作っていただき、ありがとうございました。芸術作品としての素晴らしさはもちろんですが、圧倒的な存在感、エネルギーをひしひしと感じました。

40 代　一般男性
　さまざまな表情の中に自然や宇宙を感じることができる作品で、とても楽しませていただきました。お軸も素敵でした。

40 代　一般女性
　宇宙、生命のエネルギーと喜び、寿ぎに満ちた耀盌が集まっていて、とてつもないパワーを頂きました。

60 代　一般男性
　素晴らしい。感動のひとときを過ごさせていただきました。これだけの作品、圧巻です。聖師さまの精神性の高さ、純粋さに心を打たれました。

70 代　一般女性
　初めて拝見し、この方の芸術家としての才能には胸うたれるひとときでした。全く存じませんでした。この方の美への探究心の美しさ、激しさ、温かさにありがとうございましたと申し上げます。

40 代　一般男性
　初めて生で耀盌を見学させていただきました。本当に素晴らしい作品でした。70 年前とは思えない色使い。時代を超えて素晴らしいと感じる作品は、まさに神が宿った作品だと感じました。

70 代　一般女性
　出口王仁三郎さまの耀盌は、現代の今、作ったかのように時代の流れが止まったかのように色がきれい。紅さまは、渋めで丁寧で、本当に素晴らしい。お茶席も贅沢な時間でした。

20 代　一般女性
　初めて見ました。心が温かくなりました。作者の方の考え方が素晴らしいと思いました。来てよかったです。

50 代　一般男性
　誌面のフォトで拝見するのみでしたが、本物の素晴らしさを目の当たりにし、言葉もありません。盌の内側の色彩も美しく、感激でした。

応挙館の棚や書院には教主さまの「うぶごえ」など、お茶盌10点が展示され、来場者の目をひきつけた

東京国立博物館・応挙館で「耀盌展」

70年の時を超え、今なお煌めく玉盌（たまもい）に感嘆の声

陶芸評論家の加藤義一郎氏によって耀盌が一般に紹介され、本年で満70年を迎えたことを記念して、10月3日～6日、東京国立博物館・応挙館で「出口王仁三郎耀盌展」が開催され、1100人が来場した。応挙館は70年前にも「出口王仁三郎聖師楽茶盌鑑賞会」が開催された場所。建物の名称に由来する日本画家・円山応挙は、聖師さまの7代前の先祖。応挙の襖絵が並ぶ館内に「天国廿八」「御遊」をはじめ耀盌20点と、教主さまのお茶盌10点が展示され、来場者は感嘆の声を残した。

会場には日本陶磁協会理事長の梅澤信子氏、しぶや黒田陶苑代表の黒田草臣氏、壺中居の中島利充氏らが来場。

また期間中、「東京大本芸術祭」として応挙館に隣接する九条館で、高野社中、東京・神奈川主会のご奉仕による呈茶席や、能楽・八雲琴の披露、陶芸家の金重有邦氏、興福寺国宝館館長の金子啓明氏、大本楽天社事務局主幹の高木日出喜氏による講演が行われた。

八雲琴「岩笛曲」を披露

金重有邦氏の講演

好評を博した呈茶席

金子啓明氏の講演

能楽「一調一管」等を披露

高木日出喜氏の講演

応挙館

耀盌顕現 70 周年記念・東京大本芸術祭

出口王仁三郎耀盌展

10 月 3 日～6 日

東光苑月次祭

東光苑月次祭（長寿感謝祭・交通安全祈願）ならびに秋季合同慰霊祭は、9月8日午前10時30分から、斎主・橋本伸作東京宣教センター次長のもと執行され、294人が参拝した。

祭員は関東教区各主会青松会員が、伶人は二絃の会関東支部、大本神諭拝読を朝倉剛太郎群馬主会青松会長が、添釜は高野社中が担当した。

祭典後、猪子恒東京宣教センター長があいさつ。本日、長寿感謝祭に参拝の対象者に祝辞を述べた。

引き続き、関東教区青年部が大本少年祭で様々な奉納行事に参加した様子を、映像を交えて報告。

続いて、「長寿祝賀式典」が行われ、列席者16人（写真）を紹介。椿リツ直心会関東教区常任委員から祝辞と記念品の授与があり、列席者を代表して、福島主会の菅野春子さんが記念品を受取り、群馬主会の朝倉泰さんが答辞を述べた。なお本年の関東教区の長寿該当者は、白寿2人、米寿36人、喜寿56人。

当日列席者＝米寿／菅野春子（福島）、野澤吉枝・市川勢子（東京）、長谷川政榮（神奈川）、濱田三智子・土井冨士子（東京本部直属）
喜寿／朝倉泰（群馬）、名古屋梢（埼玉）、城本建彦・牛膓久美子・平松弘子（千葉）、青森佳子、山口朝子・石田ゆめ子（東京）、旗手彬人・藤谷稔泰（神奈川）

21世紀・生きがい講座

第198回21世紀・生きがい講座は8月21日、港区新橋の航空会館で開催され、田辺謙二大本教学委員会委員が「あの世を知って現代を生きる」～大本の霊界観～と題して講話した。受講者は40人。

田辺講師は、「大本では〝現界は修行の場〟と教えられており、現界での体験を通して魂をより大きく、強く、綺麗にさせていただき、死後、霊界に戻ったとき、神さまの手足となってご用をさせていただく。そのことが人生の大きな目的」と説明。「霊界は意思想念の世界。天国に行くためには現界にいる間に心の中に天国を作るように努める。そのためには、常に良心に省みて、一生懸命前へ進ませていただくこと」として、現界での生き方の大切さを述べた。

参加者からは、「日々の心の持ち方がいかに大切であるかを学ぶことができた」「現界や霊界についての大本の教えが勉強できてよかった」などの感想がよせられた。

東光苑秋をめでる夕べ

東光苑秋を愛でる夕べは中秋の名月にあたる9月13日、午後6時から催され、一般を含む41人が来苑。

朧月のもと、東光庵にて高野社中による薄茶接待が行われ、路地を照らす行灯と能楽の調べが、幽玄の世界を演出した。

11月 東光苑祭典・行事予定

3日（日）午前10時30分～
開教127年 大本開祖大祭遥拝祭

10日（日）午前10時30分～
東光苑秋季大祭
新穀感謝祭
七五三詣り

20日（水）午後7時～8時30分
21世紀生きがい講座（航空会館・新橋）
講題 平和になるはこの道
～世界連邦の実現を目指して～
講師 谷本真邦（世界連邦運動協会理事・世界連邦日本国会委員会事務局次長）

23日（土）・24日（日）
東光苑葬祭研修会

大本東京本部ホームページ
URL http://oomoto-tokyo.com

第28回 家庭平安祈願祭

日　時　10月26日（土）午前10時30分
場　所　東京宣教センター・ご神前
申込み　申し込み者は信徒・一般を問いません。ご本人に代わっての申し込みも可能です。ご希望の方には申込書をお送りします。所定の申込用紙に必要事項を明記の上、祭典玉串（任意）を添えて、所属の機関、または東京宣教センター祭務課「家庭平安祈願祭」宛にお申込みください。
締　切　10月21日（月）必着
その他　ご祈願は祭典後1週間執行します